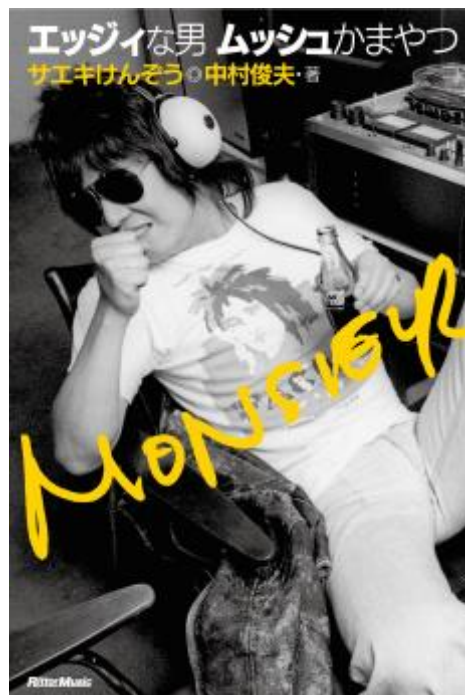


各 位

2017年9月28日  
株式会社リットーミュージック

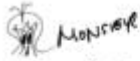
**ムッシュかまやつとはなんだったのか？  
そのエッジな魅力を、サエキけんぞうと中村俊夫が多面的に探る愛のある文化論**



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古森優）は、サエキけんぞう、中村俊夫の共著による書籍『エッジな男 ムッシュかまやつ』を、10月13日に発売します。

惜しまれつつ、最高の歌と、忘れられない面影を残した大スター、ムッシュかまやつ。終生、時代の先端（エッジ）に居続けたムッシュの才能の軌跡をたどりながら、その活動の本態と真価を描き出す本書。GS評論家の第一人者・中村俊夫と、公私にわたり数多くの接触を持ったサエキけんぞうが、唯一無二のアーティストを多面的に分析した愛のある文化論です。

また、10月22日(日)には、本書の出版を記念したトークショー『サエキけんぞうの  
コアトーク vol.85「追悼ムッシュかまやつ」』も LOFT9 Shibuya で開催予定です。詳しく  
はこちら (<http://www.loft-prj.co.jp/schedule/loft9/74024>)。



「ロック」とは何か？ 日本では、近年まで手拍子をとらせると、パン、パンつと「アタマ」で拍子をとっていた。アイドル・ライヴの手拍子では今でも「パン・パ・パン」という手拍子が愛されているが、これはそんなアタマのりの香りが残っているのだ。

ロックは「ン・パン、ン・パン」と後ろの拍でとらなければならない。曲で1、2、3、4とリズムをとった場合、2と4に重心を置くことが重要なのだ。もともと日本人はそこでロックから脱落していた。こうした日本には存在しなかった黒人リズムの「バックビート」がロックのカンドコロだったのだ。「ウラ」でとるリズムのカンドコロを持つことがロックの入り口なのだ。

ムッシュとスパイダースの凄腕ところは、そこにとどまらなかったこと。「ミート・ザ・ビートルズ」を「耳」で分析するだけで、普通なら聞こえない音を聴いていた。ムッシュとお会いしてすぐに教えていただいたのが、「ミート・ザ・ビートルズ」の一曲目「抱きしめたい」のイントロあたりのことだ。「ダ・ダ・ダン」というギターのイントロ・フレーズは、ただその音符を弾いてもあのような演奏にはならないよ！という指摘だ。

「ダ・ダ・ダン」の前には、耳に聞こえない「ウン」という拍があると、「ウン」と身体にリズムをハネさせ、次の瞬間「ダ・ダ・ダン・ダン・ダン・ダ」というギターのイントロを弾くというのだ。「ウン」「ダ・ダ・ダン」で、初めてあのハジけた感じが出るというのだ。聞こえない音「ウラのリズム」を感じる、それがビートルズを演奏するということだ。

## 「フリフリ」〜カオシーな日本ロックの曙

スパイダースのディレクター、本城和治を始めとする何人もの人が証言する。「スパイダースが、日本初のロック・バンドだ」と。スパイダースが日本初のロック・バンドとするなら、1965年5月10日に歌詞曲のレーベル、クラウンから発売された「フリフリ」は、日本最初のロックのシングルということになる。

1964年2月にスパイダースに加入したムッシュは、輸入盤の「ミート・ザ・ビートルズ」を銀座で手に入れる。インタビュによつては1963年暮れに手に入れたと発言しているが、同アルバムが米国で発売されたのは64年1月20日なので、スパイダース加入と同時に手に入れたと思われる。運命の出会いであった。

このアルバムを早速メンバーに教え、日夜ムッシュ宅で研究を重ねたという。そして完成したのがこの曲。約1年の研鑽期間を経たことになる。

ムッシュとスパイダースの凄腕ところは、「ミート・ザ・ビートルズ」を「耳」で分析するだけで、そのリズムの仕組みとカンドコロを解説したことだ。



スパイダース時代のムッシュ。(撮影：井出博見)



「夕陽が泣いている」

ムッシュが指向していたのは真に洋楽的にハイセンスな曲だ。歌謡曲的センスについて、気が進まずに歌わざされた60年代初期のソロ期に嫌気がさしていたのだろう。だからスパイダースでは「ノー・ノー・ボーイ」を始め思いつきりシャレた曲を作ってきたわけだが、制作陣は決定的なヒットが欲しい状態だった。そこに舞い込んだのが浜口庫之助が音楽を担当した映画「深くんさよなら」の挿入歌という仕事。それが66年9月15日発売の「夕陽が泣いている」である。

浜口といえば65年、田代美代子・和田弘とマヒナスターズの「愛して愛して愛しちゃったのよ」を大ヒットさせ、66年にマイク真木「バラが咲いた」も大ヒット。それらのヒット曲はいずれもスパイダースに通じる軽快な陽性ポップス調だった。

ヒットの波に乗る浜口作品としては、映画の元となった坂本九「深くんさよなら」を65



銀座 ACB のステージに立つスパイダース。(撮影：井出博見)

にしたムッシュのサウンドに、簡美京平の厚くて深い編曲が加わることで、日本ならではのロックの情緒感を生み出した。

ビートルズでいえば、コーラス・ワークと編曲が絡み合い、絶妙の高みに立った中期アルバム境地と言える。実際「イン・マイ・ライフ」や「イエスタデイ」といった名曲を生んだ中期ビートルズは、バンドの力だけではなく、プロデューサーのジョージ・マーティンが大きな役割を果たしていた。「真珠の涙」における簡美京平と立場が似ていた。バンドのロック性を損ねずに、多重録音やストリングスやコーラス・ワークによって新しいスパイダースを作る。「真珠の涙」と次作「黒ゆりの詩」は、中期ビートルズとなぞらえられる名品。スパイダースの「ラバー・ソウル」のピースとなるべき作品だった。

残念ながら当時、ビートルズ的な録音技術の革新は文化としてはほとんど輸入されなかった。しかもスパイダースは、録音に凝るにはあまりにも忙しすぎた。この曲の入った「明治百年、すばいだいす七年」(68年10月25日)は、仕様こそビートルズの「サージエント・ペパー」を意識したもの、内容は後ろ向きな歌謡曲タッチの作品を含むバラエティ盤となった。68年秋は、歌謡曲化の波がG.S.のすべてを覆っていたのだ。スパイダースも飲み込まれた。スパイダース・シングル曲は二度とロック性を取り戻すことはなかった。坂道を転がり落ちるように、G.S.界全体が落ち目になっていく。

「真珠の涙」には、G.S.隆盛最後の夏の輝きがある。自分のパール兄弟という名前も「真



ムッシュの最初のバンド、ザ・サンダーバード。(写真提供:ケイダッシュ)

ッッシュと共にボーカルとギターを担当する元・山下敷一郎とレッド・コースターの高見純、そして新人の松本健一(ベース)と岸茂志(ピアノ)の計7人(ピアノは固定メンバーではなく、その後流動的に変わっていった)。

結成当時の平均年齢22歳。最年少は18歳の杉本で、ムッシュは21歳だった。20代後半以上のメンバーで構成されているバンドが多かった時代に、まさに新世代グループが誕生したというわけで、胸ポケットにワッペンを付けた紺のブレザー・ジャケットに白いズボン、紺と白のコンビの靴で揃えたスチール衣装も、若者好みのトレンドイデオロギカルなセンスにあふれていた。そう、とてもお洒落なバンドだったのだ。

お洒落だったのは衣装だけではない。彼らが何よりも注目されたのは、他のカントリー／ロカビリー系バンドよりもジャズにシフトしているところだった。戦後間もなく海軍軍の娯楽需要もあつていくつものジャズ・バンドが生まれ、総合集歌を続けながら日本ジャズ・シーンを形成。1952年、53年と連続して来日したドラム奏者シン・クルーバは我が国の第一次ジャズ・ブームの火付け役となり、ジャズ・ドラマーがスター・プレイヤーとして脚光を浴びるきっかけを作った。57年に製作された石原裕次郎の主演映画『風を呼ぶ男』(日活/監督・井上梅次)は、そんな時代を描写した作品である。

明日のドラム・スターを夢見て17歳で日本ジャズ界の大御所ドラマー、ジミー竹内に師事したジョージ大塚、中学生の時にジャズに開眼したことが音楽への興味の第一歩だった

ムッシュの父・タイプ翁港(本名・翁港正)は1911(明治44)年5月7日、米田ロサンジェルズで生まれた。父親の翁港兵一(ムッシュの祖父は明治中期に単身渡米し、現地で洋服店、クリーニング店、銭湯などを営んでいたという。タイプは子供の頃から音楽に親しみ、パンジョーやギターを習得。20代で日系人ジャズ・バンド「ショートーキアンズ」に参加するが、大衆演劇の真つ口中で日系人バンドを雇い入れてくれる店はなく、途方に暮れていた頃、東京のダンスホールで本格的なジャズを演奏できるバンドを求めているという情報を聞きつけ、1937(昭和12)年にバンドのメンバーたちと共に父の祖国である日本に渡った。

当時の日本は6年前の満州事変以降、日本軍による中国大陸への侵攻が激しくなり、7月には盧溝橋事件が起きて日中戦争が勃発というキナ臭い状況下だったが、東京や上海の日本人租界ではダンスホールやクラブが賑わい、タイプたちも東京、横浜、上海の店に出演して活動していた。そんな頃に知り合ったのが、タイプよりも3年早く米田からミュージシャンの仕事求めて日本に来ていたトランペットの森山久だった。

1910(明治43)年、サンフランシスコの写真店に生まれた日系二世の森山は、10代の時にルイ・アームストロングに憧れてトランペットを始め、パシフィック・カレッジで本格的に学んだ後に来日。岳父はコロムビア・レコードでスタジオ・ミュージシャン、夜はダンスホール等で演奏しており、その中でタイプとの親交が生まれたのである。

当時の森山のトランペット・プレイは、コロムビアジャズ・バンドの「草津ジャズ」(昭和11年)、淡谷のり子の「おしけれ娘」(昭和11年)等、服部良一作品で聴くことができるが、昭和12年にリリースされた服部作品の「霧の十字路」ではボーカルも披露している。やがてショール・トーキアンズのメンバーたちは米田に帰っていったが、タイプと森山は日本にそのまま残り、赤坂のダンスホール「フロリダ」などに出演したり、軍の慰問団に参加して上海に行き、当時「別れのブルース」の大ヒットを放つて人気あつたジャズ・シンガー淡谷のり子のバックアップも務めている。この時期にタイプは浅田恭子と交際を始め、その後結婚。1939(昭和14)年1月12日、長男・弘(ムッシュ)が誕生する。森山も翁港家に入入りするうちに浅田恭子の妹でジャズ・シンガーだった浅田陽子と出会い結婚している。

日米関係が悪化を深める中、ついに1941(昭和16)年12月8日、日米開戦。タイプも森山も帰国するすべを失ってしまったわけだが、すでに前年10月に戦時体制強化のた

## 華麗なる音楽DNA・翁港家と森山家

ムッシュの父・タイプ翁港(本名・翁港正)は1911(明治44)年5月7日、米田ロサンジェルズで生まれた。父親の翁港兵一(ムッシュの祖父は明治中期に単身渡米し、現地で洋服店、クリーニング店、銭湯などを営んでいたという。タイプは子供の頃から音楽に親しみ、パンジョーやギターを習得。20代で日系人ジャズ・バンド「ショートーキアンズ」に参加するが、大衆演劇の真つ口中で日系人バンドを雇い入れてくれる店はなく、途方に暮れていた頃、東京のダンスホールで本格的なジャズを演奏できるバンドを求めているという情報を聞きつけ、1937(昭和12)年にバンドのメンバーたちと共に父の祖国である日本に渡った。

当時の日本は6年前の満州事変以降、日本軍による中国大陸への侵攻が激しくなり、7月には盧溝橋事件が起きて日中戦争が勃発というキナ臭い状況下だったが、東京や上海の日本人租界ではダンスホールやクラブが賑わい、タイプたちも東京、横浜、上海の店に出演して活動していた。そんな頃に知り合ったのが、タイプよりも3年早く米田からミ

# 001: MONSIEUR KAMAYATSU DISCOGRAPHY

作成：申村俊夫

## [ORIGINAL ALBUMS]

### かまやつひろし

かまやつひろしの俺の歌を聞いてくれ  
フィリップス/SFL-1131/60年



かまやつひろし名義の記念すべきアルバム(後編入)は50cmLP。「おれキョロ」(恋の共通切符)「恋しき16才」など全曲カパー楽曲で構成されている。ロカビリー・ナンシー(「ジョーンエイジ・クラブ」)、ジャズ・テンパー(「キキリバン」)が聴きもの。

### ザ・スパイダース

ザ・スパイダース・アルバムNo.1  
フィリップス/SFL-7289/64年



当時としては革新的な、自由自らのオリジナル曲だけで(「しずかに」はウラシマ曲の改作だが)構成されたスパイダースのファースト・アルバム。その収録曲の大半がムッシュ作品であり、日本ロックの黎明期を切り開いた歴史的意義だ。

ザ・スパイダースの大進撃  
フィリップス/FS-3015-6/67年



68年に公開された主演第2弾映画のオリジナル・サウンドトラック・アルバム(12cmEP2枚組)。全曲中曲がムッシュ楽曲。中でも「暗闇にバツを捨てよう」と「メラ・メラ」は若い世代からも高く評価され、船もノビたもの人気曲となっている。

ザ・スパイダース・アルバムNo.5  
フィリップス/FS-8018/68年



先行シングル曲であるムッシュ作品の「あの時君は居なかった」「もう一度もう一度」「いつまでもどこまでも」を録いて、洋楽カパー曲だけで構成されている。プロデュース・ハルムの「青い影」、オーティス・レディンが原「アイリッシュ」のボーカスはムッシュ。

ザ・スパイダース・アルバムNo.2  
フィリップス/SFL-7289/64年



全曲オリジナルでまとめた1作目と対を成すように、この2作目は当時のスター・ジミヘン・ローラーでもあったビートルズやエニックス等のカパー楽曲。2作合わせて聴くことで初期のスパイダースの全貌がわかる仕掛けとなっている。

スパイダース'67/ザ・スパイダース・アルバムNo.3  
フィリップス/FS-5056/67年



「夕陽が泣いている」「なんとなくとなく」の連続ヒットで大ブレイク後、スパイダース全盛期の再興期を告げたアルバム。名曲「サマー・ゲーム」や90年代に米国のグランジ系バンドにカバーされ話題を呼んだ「なればいり」を収録。

明治百年、すばいだーず七年  
フィリップス/FS-8020/68年



明治元年から100年目とスパイダース結成7年目の記念アルバム。ムッシュ作品の「星ゆりの詩」「赤いドレスの女の子」「真珠の涙」を除く全曲の作詞作曲をメンバーたちが担当。「エスター・タックス」はムッシュのワンマン多重録音実験の試作第一号作品である。

スパイダース'69  
フィリップス/FS-8043/69年



通算7作目のオリジナル・アルバム。ムッシュのワンマン多重録音実験第二号作品「ソー・ロック・サチヤ」と第三号作品「ムッシュなキロー」を収録。両曲とも「エスター・タックス」と一緒に翌年のソロ・アルバム「ムッシュ」に再録されることになる。

ゴー!スパイダース・フライ!サベージ  
フィリップス/FS-5016/67年



日本航空の世界一周記録開放を記念して制作されたスパイダースとサベージの録音スポット・アルバム。A面に収録されたスパイダースの新曲6曲の中でも、当時の最新型ジェット旅客機をテーマにしたムッシュのオリジナル「夢のDC8」は隠れ名曲のひとつ。

ザ・スパイダース・アルバムNo.4  
フィリップス/FS-8026/67年



GSシーンの頂点に君臨するスパイダース全盛期のアルバム。収録曲全12曲中5曲がムッシュ・オリジナルで、隠れ名曲「恋のドラクーン」「僕のハートはダン!ダン!」ほのちにセルフ・カバーしている。インク・アンド・ペリッシュに音楽を用いた「イブ」は海外でも人気が高い。

ロックン・ロール・ルネッサンス  
フィリップス/FS-8100/70年



スパイダースのラスト・アルバムはオールド・ロック・ロールの古典と69-70年当時の洋楽ヒット曲のカパー集。ムッシュは「ビーバップ・ア・ルーラー・ジェニ・ジェニ」と「ハウンド・ドッグ・ヘル・シールド」のボーカスを担当している。

### かまやつひろし

ムッシュ〜かまやつひろしの世界  
フィリップス/FS-8075/70年



かまやつひろし時代から約10年後のスパイダース各員中に発表された2作目のソロ・アルバム。作曲・編曲だけでなく、多重録音も担当して全楽曲の演奏、ボーカル、コーラスもすべてムッシュ自身が手がけた日本初のワンマン録音アルバムだ。

## 《書籍》

『エッジイな男 ムッシュかまやつ』

発売：2017年10月13日

価格：(本体 1,800円+税)

仕様：四六判/280ページ

ISBN 978-4-8456-3134-6

商品詳細 <http://amzn.to/2fcd6lt>

## CONTENTS

### 第1章 生涯いちバンドマンのライフ・イズ・グルーヴ

カントリーからヘヴィ・ファンクまで、その音楽変遷史

見過ごされてきた超カッコいい音源

「フリフリ」～カオシーな日本ロックの曙

### 第2章 ザ・スパイダースのメイン・ソングライター

「夕陽が泣いている」数奇な運命をたどるキー曲

「真珠の涙」～ムッシュとスパイダース進化形

リアルタイムのスウィングン・ロンドン

ザ・スパイダース隠れ名曲ガイド

コラム

ザ・スパイダースの外タレ前座時代

ザ・スパイダースの国際戦略

ザ・スパイダース幻のラスト・レコーディング曲

### 第3章 爆発前夜

カントリー&ウェスタンの洗礼

レコード・デビューはしたけれど…かまやつヒロシ氷河期

短命に終わった幻のバンド、ザ・サンダーバード

グリニッジ・ヴィレッジでビートニクと遭遇

亀渕友香に聞く初期ムッシュの実像

### 第4章 運命を切り開く人の輪

華麗なる音楽DNA・釜范家と森山家

老舗レストラン、キャンティが結んだ縁

ZUZU（安井かずみ）との69/70

コラム

自ら選んだレイジー・ライフ

### 第5章 70年代、充足のミュージック・ライフ

はっぴいえんど、そしてユーミン

ウォッカ・コリンズの軌跡

武部聡志、石井ジローに聞く「ロックな」70年代

持ち前の反骨精神を見せた「いま、ボブ・ディランは何を考えているか」

コラム

和メロはカタキだったのか？

新しき才能との出会い

### 第6章 いつまでもどこまでも

1990年代、渋谷系&世界規模の再評価



25年の時を経て結実した雷門プロジェクト

主治医に聞く穏やかな最期の日々

「B級ミュージシャンとして生きる」美学を貫き通したその処世術

コラム

乱入はいつもの合言葉？

ムッシュかまやつ古希に語る半生記

ディスコグラフィー

職業作曲家としてのムッシュ

## 《プロフィール》

サエキけんぞう

アーティスト・作詞家。1980年ハルメンズ『近代体操』でデビュー、86年パール兄弟『未来はパール』で再デビュー、2003年『スシ頭の男』でフランス・デビュー。作詞家として、沢田研二、モーニング娘。、サディスティック・ミカ・バンド、他多数に提供。著書『歯科医のロック』（角川書店）他多数。12年著書『ロックとメディア社会』（新泉社）でミュージックペンクラブ賞受賞。最新著『ロックの闘い1965-1985』（シンコーミュージック）。



中村俊夫（なかむらとしお）

1954 年生まれ。音楽企画制作者／音楽著述家。駒澤大学経営学部卒業後、音楽雑誌編集者、レコード・ディレクターを経て、90 年代から GS、日本ロック、昭和歌謡等の CD 復刻制作監修を多数手がける。共著に『みんな GS が好きだった』『日本ロック大系』『ミカのチャンス・ミーティング』『歌謡曲だよ、人生は』『ザ・タイガース研究論』等。



### 《出版記念イベント概要》

サエキけんぞうのコアトーク vol.85 「追悼ムッシュかまやつ」  
～『エッジイな男 ムッシュかまやつ』出版記念～

□日時：

2017 年 10 月 22 日（日）OPEN 17:30 / START 18:00

□場所：

LOFT9 Shibuya（東京都渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS 1F）

□出演：

加藤充（ザ・スパイダース：ベース）

本城和治（ザ・スパイダース担当ディレクター）

中村俊夫（GS 評論家）



shiro 《丹波博幸（ムッシュバンド）、宮原芽映、窪田晴男》

【司会&プロデュース】サエキけんぞう

□チケット：

前売 ¥2300 / 当日 ¥2800（飲食代別）※要1オーダー

●前売券はイープラス、ローチケ HMV で発売中！

イープラス <http://eplus.jp/sys/T1U14P0010843P006001P002238124P0030001>

ローチケ HMV <http://l-tike.com/order/?gLcode=35466>（Lコード 35466）

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング □設立：1978年4月10日 □資本金：1億円 □決算期：3月31日 □従業員数：81名（2016年3月31日現在） □代表取締役：古森優 □事業内容：音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>



株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017年4月1日にグループ創設25周年を迎えました。

以上

---

### 【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報宣伝担当

Tel: 03-6837-4728/ E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)